

# 武漢大学留学レポート



福島県立医科大学 5 年生 我妻結衣

### <はじめに>

私は、2018年2月26日から3月31日までの34日間、福島県立医科大学の交換留学生として、中国の武漢大学に留学させていただきました。34日間、日本では体験できないような貴重な時間を過ごすことが出来ました。これから留学する方の参考になれば幸いです。

### <武漢市について>

都市名：武漢（日本語）、Wuhan（英語）

日本との時差：日本より1時間遅い

人口：1080万人

面積：8467平方km

武漢市は、北京・上海・広州・成都など中国主要都市の中央に位置しており、九州（省）に通じる交通の要所と呼ばれています。現在では中国経済圏の中心に位置し中国ビジネスの中心拠点として多くの企業から注目され、今後も成長が期待されています。実際に、外を歩いていると、地下鉄を作っていたり、道路の工事をしていたり、発展している様子が分かりました。



湖から見える武漢大学  
医学部キャンパス



武漢市の街並み  
(大学付近)

### <武漢大学について>

1913年に国立武昌高等師範学校として創立され、1928年に正式に国立武漢大学という名称が制定されました。面積は389万平方kmで、学生数は2008年で、学部学生31277人、修士課程院生が10731人、博士研究生が6736人で総計48000人となっています。武漢大学には、30種類の学部があり、様々な分野についてのプログラム、例えば、科学、技

術工学、農業、医学、文学、歴史、哲学、法律、経済学、教育学、経営学などについてのプログラムを提供しています。医学部キャンパスは、医学部村と呼ばれており、メインキャンパスから離れて、湖を挟んだところにあります。メインキャンパスから医学部キャンパスは歩いて15分くらいですが、メインキャンパスはとても広いので、歩くとても疲れます。そのため、シャトルバスもあります。大学について初めに驚いたのが、大学内に寮がたくさんあることでした。武漢大学では、ほとんどの学生が寮に住んでいます。そのせいなのか、ノーメイクやあまりおしゃれをしない人が多いなと感じました。中国人の学生に聞いたところ、4人で一つの部屋で、住み心地はあまり良くないそうです。大学には、食堂とコンビニ、小さな屋台がありますが、それで飽きないのか聞いてみたところ、武漢ではデリバリーが普及しているため、多くの学生がデリバリーを頼むそうです。実際に大学内を歩いていると、お昼時や夕飯時はデリバリーのバイクがたくさん走っています。また、大学の校内には野良犬がたくさんいます。日本の野良犬と違って見た目はとてもかわいいです。ご飯を持っていると近づいてきます。3月中旬になると、メインキャンパスで桜が咲きとても綺麗です。多くの観光客が来て、とても賑わいます。

校門付近にある毛沢東の像



#### <中国の医師について>

中国人の友達に聞いたところによると、中国では医師は、そんなに人気の職業ではないらしいです。理由は、仕事内容は大変で、時間も拘束されるのに、給料が安いということです。それでも熱心に勉強し、英語もうまく話せる中国の学生はすごいなと思いました。中国では医師より、効率よく稼げる歯科医師のほうが人気らしいです。また、全学部の中で、一番人気があるのは経済学部だそうです。確かに、中国でお金を稼ぐなら、中国なら

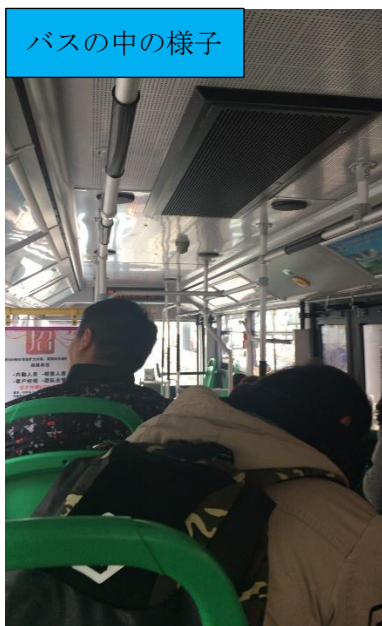
消費者も多いし、海外への輸出を考えても、人件費も、その他の費用も安く済むので、会社を経営したほうが儲かるなと思いました。また武漢は、大きな都市なのでお金持ちも多く、道路を見ると、数多くの外車が走っていました。

## <生活について>

### ・乗り物

中国に着いて空港から外に出て、まず思ったことは、車がすごくうるさいということでした。空港の前で渋滞が起きていて、多くの車がクラクションを鳴らしていて、とにかくうるさかったです。空港だけでなく、学校の中でも、原付バイクから音がして、朝も夜もなっています。最初は睡眠を妨害されましたが、1週間もたてば慣れました。街中を歩いているときも、歩道を歩いているのですが、後ろから、バイクや自転車が走ってくるので、それらを避けながら歩かねばならず、横断歩道を渡っていても、横から車が押し寄せてくるので、中国では歩くのも大変だと感じました。日本では、歩行者優先ですが、中国では、そうではないようです。中国の人は、接するたびにみんな優しいと感じますが、車に乗ると優しくはありません。バスに乗った時も、揺れが激しいですし、速度も速いです。しっかり掴まっていないと倒れそうになります。

バスの中の様子



空港の様子



### ・部屋

私たちは、大学の中の迎賓館に泊っていました。女子部屋は3人で一つの部屋でした。二人一部屋だと思っていたので、少し物があふれ、狭い感じはしましたが、生活するのに問題はありませんでした。部屋はパツと見、きれいではありますが、埃がたくさんあります。入ってから2週間ほどは、部屋にいる間はくしゃみと鼻水が止まらず、眠ることも困

難でした。テレビはありますが、つきません。エアコンは壁にしっかりくっついておらず、少し浮いていたり、冷蔵庫は少し臭かったり、シャワーはドアが外れていて、水が床に飛び散って水たまりができてしまうので、自分たちでビニールと洗濯ばさみで臨時のカーテンを作ったりしました。また、ティファールのようなお湯を沸かすものがありますが、私の部屋にあったのは中がとてつもなく汚かったので、使うことをあきらめました。部屋にいただけでメンタルが強くなった気がします。



#### ・清潔感について

中国は、日本と比べると清潔ではありません。スーパーも教室も部屋も道路もきれいとは思えませんが、近くにある漢街やその近くにあるワンダプラザは、日本にいるようなきれいさでした。ですが、漢街やワンダプラザに並んでいるお店の商品は、日本よりも、高いので、歩くだけで、買うことはなかなかありませんでした。ユニクロやH&Mも日本より割高でした。そこまでのお金を払って買う価値はないかと思えます。道路は、車が通ると砂埃が舞って、目がかゆくなったりします。そして、道路わきには、ごみが溜まっていたりして臭いがすることも多いです。また、中国の空気はあまりきれいではなく、景色も晴れているのに、白っぽく見えます。

#### ・食事

中国のご飯はとても美味しく、毎日の楽しみでした。ご飯は学校の食堂で食べると10元（約170円）ほどで済み、美味し中華料理を食べることが出来ます。少し街の中に行くと値段は日本と同じくらいになってしまいますが、洋食や日本料理を食べることが出来ます。吉野家もありました。日本のショッピングモールみたいで、眺めているだけで楽しい

です。店員さんも優しいことが多く、中国語が話せなくても、きちんと対応してくれました。とても、美味しかったのですが、中国ではサラダのような生野菜を見かけることは少なく、油っぽいメニューが多かったです。最初は大丈夫だったのですが、2週間後くらいから、ニキビなどの肌荒れがとてひどくなったので、中国にこれから行こうと考えている人は、サラダはあまりないので、果物などをたくさん食べるように心掛けたほうがいいと思います。スーパーに行くと、パイナップルが3元くらいで買うことが出来て、美味しいです。では、いくつか食べた料理を紹介したいと思います。



火鍋



メインキャンパスに  
売っているケバブ

火鍋は武漢に来てすぐに仲良くなった日本好きの女子学生の子に連れて行ってもらいました。6人で行ったのでいろんな種類の具材を食べることが出来てよかったです。お肉が美味しかったですし、スイカも食べ放題でした。



中華料理



漢街にある韓国料理屋さんにて

この左側の写真の中華料理も良かったです。真ん中の麻婆豆腐は少し甘い味がしました。唐揚げのようなものも、辛そうに見えますが、辛くありませんでした。



ビュッフェ形式の鍋は、具材をたくさんある中から選べ、お肉だけでも多くの種類がありました。ここには、日本に留学していた学生たちと一緒に楽しい時間を過ごすことが出来ました。

#### ・トイレ

中国のトイレは話に聞いていた通り、とても汚いです。私は、見た目もですが、においにも耐えられないので、自分の部屋ととても清潔感のあるお店以外のトイレは使わないようにしていました。また、使ったトイレトーパーをトイレの横のごみ箱に入れるのも、耐えられませんでした。また、トイレを掃除している気配もなく、清潔感のないトイレを使うのは、とても辛かったです。中国人は、トイレは汚いところと認識しているので、トイレを清潔にするという概念はないのかもしれない。

#### ・言葉について

中国では、小学生から英語教育が現在、行われているので、学生たちは普通に英語を話せますが、たぶん40歳以上の人達の時は、英語教育がされておらず、先生方も英語はうまく話せないようでした。何よりも大変だったのは、買い物でした。スーパーなどのおばちゃんたちは、英語が全く話せないなので、分からないと話しても中国語ですごく話しかけてくのでびっくりしました。でも、徐々にスーパーやコンビニでも一人で買い物できるようになりましたし、一人で外食にも行けるようになったので、何とかなるものだと思います。

### <授業について>

私は、解剖学講座にお世話になることになりました。解剖学講座では一部屋を留学生のために貸して下さって、しかも、どの先生もとても優しく、武漢のことや大学のこと、観光など様々なことを教えてくださいました。先生方はあまり英語を話せませんが、とても親切にしてくださいました。

解剖の講義は火曜と金曜にありました。私たちは留学生用の英語の授業に出たので、周りはインド人ばかりでした。また時間があつたので、生化学の授業にも出席しました。

中国では医学部は臨床に出る人は5年生まで博士号まで取る人は8年生まで勉強します。8年はとても長くて驚きました。学生たちは真面目でテスト前でなくても、図書館で勉強している人がたくさんいました。ベランダのようなところにも机が置いてあって、外で勉強している人もたくさんいました。日本では見られない光景でしたが、春などは外で勉強するのも気持ちが良いかもしれないと思いました。

解剖学講座に貸していただいていた部屋

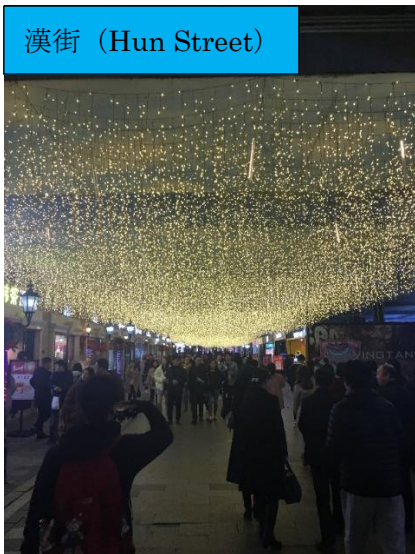


### <観光と交流について>

この中国の留学では、多くの中国の人たちに出会って、仲良くなり、様々な場所へ連れて行ってもらいました。



漢街 (Hun Street)



漢街は大学から歩いて 15 分ほどで着く、ショッピング街です。多くのブランド店があります。とても高いものばかりです。音楽がかかっているおしゃれな雰囲気です。レストランもたくさんあり、食には困ることはありませんでした。夜になるとライトアップされてとても綺麗です。

黄鶴楼



ピクニック@磨山



黄鶴楼には武漢大学の学生二人と、そのいとこの日本に留学中の学生に案内してもらいました。日本語で武漢について詳しく教えてくれてとても助かりました。黄鶴楼の上からは、武漢を眺めることができ、様々な地区や発展の様子を見ることができました。磨山は大学の 2 年生の学生の子たちとピクニックに行きました。みんなで uno やじゃんけんゲームなどをして盛り上がりました。遊園地もあってゴーカートなどをして遊びまし

た。学生の子たちはみんないい子たちで、校内で私を見つけると、笑顔で話しかけてきてくれました。英語が苦手な子も多かったのですが、そんなことも気にせず楽しむことができました。



East Lake には神経内科の講座で研究をしているヨウちゃんと組織の講座で研究をしているみいちゃんと一緒に去了。二人とも学生です。East Lake はとても大きいので、アイクリングをしながら回りました。天気も良く、サイクリング日和でした。一日一緒にいたのでいろんなことを話しました。本当に仲の良い友達ができてよかったです。

湖北省博物館には美怜さんと一緒に去了。説明が中国語だけなのであまり楽しめないかもしれないということを知っていたのですが、図などで分かりやすく説明されていたため、少しは理解することができました。その隣には、美術館もあって行って見たんですが、芸術には言葉がいらぬせいか、とても楽しむことができました。

#### <まとめ>

1 か月という短い期間でしたが、今回中国に留学したことで多くの友達ができ、多くの体験をすることが出来ました。中国に来る前と後では中国のイメージがすごく変わりました。本当に楽しかった1 か月間でした。中国と日本では、異なる部分も多くですが同じだなと感じる部分も多かったです。留学中には、慣れないことや、少し困ったこともありましたが、中国の方々は本当に優しく、助けていただくことも多かったです。今回このような機会を与えてくださって本当にありがとうございました。